

会場での質疑の概要

1. 福島原子力事故の総括および原子力安全改革プラン

【ご質問】

今回の原子力安全改革プランで国民から信用されるようになると思っているのか？

(刈羽会場、柏崎会場)

【回答】

福島の事故は防ぐべき事故であり、その反省から、今回紹介した原子力安全改革プランを作りました。当社がかつてのように世の中から信用されていると思っておりませんが、柏崎刈羽原子力発電所では、最大限の安全対策を行い、今後何とか皆様の信頼を得られるようにしていきたいと思っております。

【ご質問】

東電は隠蔽体質だ、改ざんなどしてほしくない。(柏崎会場)

【回答】

我々は10年前から隠蔽体質をなくすため努力してきたつもりでしたが、まだまだ至らぬ点があり大変申し訳ありません。今後はそういう体質は一切脱ぎ捨てて情報公開をしながら安全対策を進めていきたいと思っております。

【ご質問】

福島事故の原因は津波でなく地震によって原子炉が壊れているのではないかと？(柏崎会場)

【回答】

地震後、津波が来るまではプラントデータが残っており、原子炉等が壊れたことを示すものはありません。解析によっても今回の地震の揺れに対してはまだ余裕があることがわかっています。また、同じ揺れに遭遇し、現在立ち入り可能な5号機と6号機、福島第二でも安全上重要な施設の破損はありません。

【ご質問】

福島第一原子力発電所の廃炉作業によって生じた廃棄物の最終処分方法は決まっているのか？

(刈羽会場)

【回答】

廃棄物は、現在は敷地内の所定の場所に遮蔽を施して貯蔵廃棄する状態で留まっています。最終的な処分の方法は残念ながら決まっていますが、まったく方法がないわけではなく、最適な方法を検討しているところです。

【ご質問】

福島事故のベントの実態は？何号機で何回行われ、どれだけの放射能が放出されたのか？(柏崎会場)

【回答】

当社の昨年6月の事故報告書では放出量は、希ガス・ヨウ素は約100ペタ(10の15乗)ベクレル、セシウムは約20ペタベクレルと推計しています。なお、当社以外でも国の諸機関が推計していま

すが、大きく数値に変わりはありません。

ベントの回数は1号機で2回程度、3号機は8～9回程度ベントを実施しています。2号機でも2回程度実施していますが、ベントが必要なときには実施できていません。

現在、福島地域を汚染しているセシウムの大半は2号機から出ていると考えています。ベントが出来なかったために格納容器の破損箇所から蒸気と一緒にセシウムを出してしまっものです。

一方、1号機と3号機のベントではサブプレッションプールの水を通して放出しており、これにより、100分の1程度には低減できていると考えています。

【ご質問】

あなた達は、福島現在の状況を実際に見たことがあるのか？（柏崎会場）

【回答】

我々はかなりの頻度で福島を除染の状況、発電所の復旧状況を現地で見えています。その上で避難を余儀なくされている方々にいかに早く福島に帰っていただくか、取り組んでまいりたいと思います。

2. 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の実施状況

【ご質問】

事故が起こる前提で安全対策を進めて欲しい（刈羽会場）

【回答】

絶対安全なんだと考えるとそこで思考停止してしまい、更なる安全性の向上が止まってしまう。これが一番悪い状況です。これからはどんなリスクがあるのか突き詰めて考えながら、より安全な発電所となるように進めていきたいと思います。

【ご質問】

新規制基準の申請はどうするつもりか？（刈羽会場・柏崎会場）

【回答】

新規制基準の適合性については評価を行っているところですが、対象が広範囲にわたることもあり、現時点でいつ申請ができるか申し上げる状況にありません。

【ご質問】

フィルターベントは、放射能をどの位に減らせるのか？（刈羽会場・柏崎会場）

【回答】

フィルターを通すことにより粒子状放射性物質の放出量を、1000分の1程度に減らします。フィルターで除去できない放射性物質が残りますので、万が一、実施しなければならない場合でも避難の状況を勘案しながら実施することになります。

【ご質問】

フィルターベントをせずすむように再設計すべきである。（刈羽会場・柏崎会場）

【回答】

フィルターベントをなるべくしないように多重に対策を施していますが、それに甘んずることなく、

万一の事態に対する備えをしておかなければならないと考えます。

【ご質問】

フィルターベントやトップベントの設置について、地元の了解を得ているのか？（刈羽会場）

【回答】

安全対策については当社の判断で自主的に進めています。これらの設備について設計の妥当性や運用の適切さについて、原子力規制庁の審査があり、新潟県技術委員会でも確認していただくとともに、地元の皆さまにも説明していきたいと考えています。

【ご質問】

マニュアル主義の弊害についてどう考えるか？（刈羽会場）

【回答】

平成14年の不祥事の再発防止として、手順書の遵守を強く進めてきたが、そろそろ変わっていく時期になってきていると思います。そもそも何のためにマニュアルに定められているか考え、マニュアルにない事態にも対応できる技術力を身につけ、マニュアルが実態から外れていけばどんどん直していく、そういう組織になっていかないといけないと考えています。

【ご質問】

水素爆発により使用済燃料プールに穴が開いたらどうするのか？（刈羽会場）

【回答】

爆発が起こらないように、水素再結合装置などの水素処理装置を多重に準備しています。それでも爆発を防げなかった際に備え、外部から水をかけて燃料を冷却できるように備えています。

【ご質問】

事故の際には避難や放射能防護はどうするのか？（柏崎会場）

【回答】

事故の際にはオフサイトセンターで関係機関が連携して対応することになっています。当社はオフサイトセンターに情報を早く、正しくお伝えしていきたいと考えています。

3. 柏崎刈羽原子力発電所の敷地内断層評価結果

【ご質問】

敷地内の断層に関する説明内容は、学会や定説に反しているのではないか。（刈羽会場）

【回答】

今回の調査は、事業者として責任を持って実施したものであり、結果を公表して様々な意見をお伺いしてより良い分析結果につなげていきたいと考えているものです。

【ご質問】

柏崎刈羽原子力発電所の基準地震動策定の際、佐渡海盆東縁断層の存在を無視しているのではない

か？（刈羽会場）

【回答】

これまでの当社の海上音波探査による調査の結果では、佐渡海盆東縁断層の存在が認められる証拠はありません。国も当社とは別に独自に調査を行っていますが、同様の結論を出しています。

【ご質問】

長岡平野西縁断層帯と十日町断層帯が連動することを考慮した評価はいつ報告するのか？

（刈羽会場）

【回答】

機器への影響の評価を行っており、報告の準備をしています。なお、原子力規制庁が耐震の新しい審査ガイドを制定する予定であり、制定後にその内容を踏まえて再確認してから報告したいと思います。

4. その他

【ご質問】

使用済燃料の処理をどうするのか？（柏崎会場）

【回答】

日本では、使用済燃料は再処理をして、残った高レベル廃棄物はガラスの容器に入れて、最終的に地下深くに埋めることになっています。ただ、そのための処分地が見つかっていないのが現状で、そのためにNUMOという機関がありますが、昨今、国も前面に立って候補地を探すことになっています。

【ご質問】

原子力発電所を再稼働するより柏崎刈羽にメガソーラーを建ててほしい。

【回答】

我々もメガソーラーや風力発電などに取り組んでおり、将来の電源のベストミックスを考えながらこれらの発電方法についても進めていきたいと思っています。

以 上